



こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	出井 清	幹事	伊藤 和夫	雑誌会報委員長	小林 透
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎ 043-245-3204)				

2011年8月第4週号

第2325回



平成23年8月26日(金) 点鐘12:30(晴れ)

- ◆ロータリーソング 『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ~言行はこれに照らしてから~

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー／千葉市長 熊谷 俊人様
- 四街道RC／吉成 庸子様
- 千葉西RC／川島 教昭様
- 小野成子会員友人／岩崎 剛士様
(京葉エナジー(株)代表取締役)
- 北原俊彦会員友人／榎本 教俊様
(フォーリーフクローバー(株)代表取締役)
- 伊藤和夫会員友人／大塚 裕正様
(大塚運輸(株)代表取締役)

■ 会長挨拶及び報告 出井 清会長

昨年に続き、熊谷市長に本日の卓話をお願いしましたら、快くお引き受け下さいました。有難うございました。

先週は、ガバナー公式訪問ということで、当ホテルへ10時半に入りガバナーをお迎えし、懇談会を行いました。例会終了後のクラブ協議会には、大勢の方へ出席して頂き、クラブの方針や運営について活発な意見交換がされました。

8月号のガバナー月信に藍綬褒章を受章された北原会員の写真が載っております。

6月の出席率が80%を割っておりますので、欠席された方は、メーキャップをして出席率向上にご協力下さい。

本日は、3名の若い方にお出で頂きました。是非とも会員としてお迎えしたいと思います。宜しくお願い致します。

■ 委員会報告

◇親睦活動委員会より(竹尾 白委員長)
8/24、CSRゴルフ会(会長杯取切戦)報告



- 《優勝》
鮫島永一会員
- 《準優勝》
花澤 衛会員
- 《3位》
吉田裕成会員

↑出井会長 ↑鮫島会員 ↑竹尾委員長

◇国際奉仕委員会より(水野 謙一委員長)

8/20(土)、地区国際奉仕セミナーが成田ビューホテルで開催され、会長、幹事と3名で参加してきました。

■ 幹事報告 伊藤 和夫幹事
山田ガバナーより、公式訪問の礼状が届いております。

■ ニコニコボックス報告

◇四街道RC・吉成 庸子様

大枚を頂戴しました。

◇出井 清会長・伊藤 和夫幹事

本日はご公務でお忙しいところ、卓話をお引き受け下さいまして誠に有難うございます。宜しくお願い致します。

栗原さん、ご入会おめでとうございます。これからのご活躍、宜しくお願い致します。

ゲストの3名の方のご入会をお待ちしております。

◇上田 欽一会員

先週の例会では急な所要があり欠席することとなり、本来私が行う発表等を伊藤和夫幹事と向後保雄会員のお二人に対応いただき、有難うございました。

◇鮫島 永一会員

夏バテで身体の調子は悪かったのですが、身体とは裏腹にボールが良く穴に入ってくれて優勝しました。気分よく帰りました。

◇杉本 峰康会員

卓話でもお話ししましたが、私が運営しておりますバスケットボールの大会(第4回チャレンジマッチ)が、先週の金・土・日の3日間で盛大に行われました。参加チーム数・145チーム、参加人数・4,000人弱と他に類を見ない大きな大会となりました。生徒全員が試合に出るとい

ことで父兄も大勢見学に来ていただき、みんなの活き活きとした姿を見て私も元気を頂きました。有難うございました。

◇鈴木 美津江会員

市長、本日はお忙しい中を有難うございます。本日は千葉市市政についてお話をお願い致します。楽しみにしております。

◇中沢 治久会員

電力不足対応で千葉火力に建設を進めていた発電設備がお陰さまで一昨日から発電を始めました。2台目も間もなく試運転を始めます。今後も原子力事故対応と節電の解消に頑張っ参りますので、引き続きのご支援、宜しく願い致します。

◇村田 紀之会員

来る、9月23日(金)、スーパーピアニスト・スペシャルナイトをオークラ千葉ホテルで開催致します。昨年10月に卓話をしていただいた「白血病研究基金を育てる会」へ売上の一部を寄付致しますので是非お越し下さい。

本日のニコニコボックス	27,000 円	累計	263,000 円
金の箱	460 円	累計	3,779 円

■ 出席報告 (会員数37名)

出席者数29	欠席者数8	ビジター 6	修正出席率 次回にて
--------	-------	--------	------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	—	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	9/21	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	9/14	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	9/15	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	9/8・15・22・29	京成ホテルミラマーレ

…本日の卓話…

演 題…『未来を見据えた千葉市のまちづくり』
卓話者… 千葉市長 熊谷 俊人様

今日は千葉南ロータリークラブの例会にお招き頂き、又、卓話の機会を頂きまして、本当に有難うございます。こういう機会を頂きますと、我々も皆さんと一緒にって同じ方向を見てやって行こうということが出来ると思います。私が就任して2年と少しが過ぎ、ちょうど折り返し点ということになります。その中で当初進めようとしていたことが、どんな状況なのかを資料に基づいてお話したいと思います。



千葉市の人口の見通しは 100 万人、今でも決して諦

めてはいませんが、今の人口の流れからすると、96 万 2 ～3千人というところです。日本全体ではとっくに人口の伸びは止まっているのですが、千葉市はまだ恵まれている方です。97 万人位までいくと、その後どんどん減っていき、平成 47 年頃には 88 万人位まで減るだろうと思います。千葉市は首都圏なので恵まれています、仙台市、新潟市等地方の大都市ではもっと深刻な状況で、人口が減り始めている政令指定都市が沢山あります。全体が減っている時でも、首都圏の千葉市は減らないという地の利があるということです。千葉市は、ここに来て始めて勤労所帯が減少に転じてきたのです。そのことは、高齢者が増えているので所得を得ている人が減るということで、それはそのまま市民税の収入に直結するのです。勤労所帯が極力減らなようにしたい、それだけ市民税の税収が減っていくことになり、このことが確認出来たのが平成 23 年度で、ターニングポイントということです。人口構造の変化の予測は、平成 27 年度には 65 歳以上の老人人口は 25.1%、それが平成 47 年には 33.2%です。65 歳以上といいますが、昔と違って 65 歳といっても大変元気です。その人達の多くが、東京に勤めていたのですが、元気なままで 24 時間千葉市にいられるのですから、千葉市の活性化に大事な人達になるのです。高齢化で本当に深刻なのは 75 歳以上の所謂、後期高齢者の数なのです。75 歳以上になって介護とかいろいろな社会的なケアを必要とするようになってきますと、市としてもマイナス面が大きくなってきますので超高齢化に耐えられるような形にしなければならないのです。

次に財政の見通しですが、お金がなければ何も出来ませんので健全な財政が何よりも大切です。千葉市の借金は全会計ベースで 1 兆円です。政令指定都市になって道路や下水道等さまざまなことが整備出来ましたが、借金もその分増えてきています。それは政令指定都市になったのが、後の方ですから急激に借金をして追いつけ追いつけと整備をしてきたためです。又、人口も凄いい勢いで増えてきました。借金が急激に増えると返済も急激に増えますので、今、まさにその返済もピークになっているのです。従って、今は予算繰りが苦しい状態になっています。

次に我々が財政で苦しいのは実質公債費比率という、1 年間の収入の中で借金返済が自動的に取られる金額で、借金で首が回らないというのが実質公債費比率です。千葉市はこれが 25%を超えそうなのです。25%を越えると国の方から早期健全化団体の指定を受けてしまいます。夕張が有名ですが、大都市では千葉市が指定されるかもしれないという状況です。私が就任して21年10月に脱財政危機宣言を出して、もうこれまでの財政運営を続けていては大変なことになるということで、大きく方針転換をしようと言いました。収入増加策、支出抑制策というもので、基本的なものを実行して、職員の人件費を抑えたり、民間の活力を利用して役所で高コストのものは民間に委ねたり、もしくは外郭団体とかをなくしていったりと、又、収入も少しでも増えるように徴収率を上げていくというようなことをやってまいりました。その結果、22年度の決算を公表致しましたが、何とか計画通りの着地

が出来まして借金も基本的には減っていく状況です。千葉市では土地開発公社がバブル時代に大量の土地を抱えており、借金していたのを解散させて市債を125億円発行させた関係で市債残高が少し増えています。これはもともとある意味では外郭団体が抱えている金融機関への借金は連結してしまえば同じことですから、決して債務が純粋に増えた訳ではないのです。その結果、市債は22年度には100億円ほど増えたようになっていますが、市債の残高は減っていることとなります。今後も毎年100～200億円ほど減らしていけるような見通しが立っております。このままいけば近いうちに連結で借金残を1兆円を割ることは充分可能だということです。

私の任期が終わる頃には、財政の健全化の見通しは立っているという状況です。これは議会にも市民にとっても若干の痛みを受け入れてもらい、議会でも真摯に受け止めていただいた結果であると思いますので大変感謝しているところでございます。

プラスの部分では我々の街づくりの方向性ではコンパクトシティで、このことは人口の減少にも掛かってきますが街づくりを今までは膨張でやってきました。人口が増えるから保育所を作る、図書館を作る、道路を作るという感じでしたが、これからは人口が減っていきますので楯抜けの地域が出かねない。高齢化がそのまま進んでいる大宮台とか、いろんな地域がありますから、これから新たに郊外に街を創るのは止めよう。交通網が20年後も30年後もある程度維持出来るというところに如何に集約した街を作っていくか。勿論、今大宮台に住んでいる人達を切り捨てることは出来ませんからしっかり維持して行くのですが、新しい街は交通のしっかりしたところで作って維持して行く。実際に千葉市の施設の中にも車で来ることを前提としたところが沢山ありますが、そういったのもこれから20年30年のスパンで考えると当然建替えの時期が来ます。その時に鉄道駅の近く、バスがある程度集約化されているところに寄せて行く、もしくは複合化して行く。行政が縦割りの為、合体させる事が全然出来ない等の弊害を避ける為、資産経営部という、市のストックを全部一元的に検討する組織を4月から作りまして、今そこで20～30年後の中で建て替えていくのに合体やダウンサイジングをして20年後や30年後に合わせた形に変えて行くことにしています。

千葉市の強みを生かそうということで、鍵は“海”です。長い海岸線や人工海浜は、首都圏や世界を見渡しても無いので、東京の近くでこれだけ大きな人工海浜を持っている街、これを使わない手はありません。残念ながら、美浜大橋の景色は大変綺麗ですが、車はいつも停まってもお店はありません。そういうところにお店があれば、みんな行くと思います。そこは千葉県の公園だから何も作れないのです。貴重な海岸線は全部公園なのです。そのために一つも開発が出来ないのです。砂浜や海辺を楽しみながらレジャーなり、食事を楽しめるスポットを作る事がこれから求められているのです。今、ポートタワーの近くに旅客船が停まる棧橋を作っています。ここから伊豆大島や館山に行けるようになります。場合によっては、羽田空港に行ける便が出来るかも知れません。こ

こが出来上がれば本当の意味で港街千葉の海開きが出来ることとなります。海ということ言えば幕張も重要です。海の部分は充分使えていないので、どのように使っていくか、幕張自体もどのように活性化していくか、ということです。今年予算から県と共同で幕張の活性化に付いて共同研究を始めました。幕張の可能性、海の部分の活用について議論しておりまして、今年度中に結論が出てまいります。それを元に幕張の活性化思索を計画的に打ち出すというふうに考えております。

産業の転換ということですが、一番大事なのは新規の企業、新しい人達を育てていかなければ成り立ちません。新しい人達を入れることで組織は常に活性化し、それによって昔からいる人達も活性化していくのです。我々行政がやることは、これから千葉市でビジネスをする方々に出来る限りのフォローアップをして、ビジネスをするなら千葉市でと、千葉県人でも東京都民でも何処の人でも良いのです。起業するという時に千葉市を選んでもらえる街を我々は作っていかなければならないと考えています。我々が一番幸せなのは、ベンチャーの中で、しっかりと技術を持っているベンチャーが多いということ、それは千葉大学があるからです。千葉大学に医学部、薬学部があって、そこ出身者達が技術的に優れたバイオの分野だったり、ケミカル分野だったり、医薬分野だったりの楽しいベンチャーが多く出ています。たまには日経新聞等に出るようなユニークな薬であったり、治療法であったりと、いろいろあります。今、千葉大学とは千葉亥鼻イノベーションプラザと言う形でベンチャー企業が入る研究棟みたいなものも作っています。千葉市の“きぼーる”の中にもビジネス支援センターと言う形で新しいビジネスモデルをする会社に対して数年間割安な家賃、経営のアドバイス付きで入っていただくようなインキュベーション施設を作っています。我々は、今後も時には増設をしながら、とにかくビジネスするのなら千葉市だと言われるようにインキュベーション施設を創っていきたいと考えています。そういう意味で、今、海外の都市を分析し始めています。人口の問題もありますが、我々は内需が拡大しない以上、海外を取り込んでいかないと絶対にいけないということです。海外を意識した都市作りはなかなか進んではいけないのです。海外ではどういった施策を打って国際的な企業の誘致がどのようにして進められているのか、または市内の企業を国際的に展開させているのかというようなことをいろいろと研究しております。そういったことを含めて街づくりの中で生かしていきたいと思っています。

国際経済交流の推進ということで、市内の企業で海外展開をしていくために、今、我々は姉妹都市としては人口1,000万人の中国の天津、アメリカのヒューストン、これは全米4位の大都市の中に入っています。他にも有望な都市は沢山ありますが、特に二都市に関しては足掛かりになると思われます。天津やヒューストンで起業する場合、千葉のインキュベーション施設のようなものがあれば、千葉市特別の条件で入らせてもらうか、もしくは行政でバックアップをしてもらう。秋には私も行くことにしていますが、天津でも前向きに考えて頂いているので何らかの

協定書を結んで帰ってくる計画をしております。

次に、昔から言われていることですが、市民レベル言えば市民が主役の街づくりをしなければならない。私が市長になってみて実感したのですが、街づくり全般の情報も来ないし、その仕組みも解からない。参加している意識が出てこない。私が良く言うのは税の話ですが、タバコ税は千葉市では60億円位あり大変大きな税収です。このタバコ税は千葉市以外で買われてしまうと千葉市には納められません。都内のコンビニで買うと東京都の税収となり、都内の学校や図書館になってしまうのです。こういったことをお話すると、千葉市で買えば良いんだね、となるのですが、こういうことをちゃんと伝えていかなければならないのです。その上で参加をしようという気になるのだと思います。我々は、今、一緒になって取組む街にして行きたいと思います。

分かりやすいのがゴミ問題です。ゴミを出さない人はいないでしょう。生活している以上、必ずゴミを出さずして。これは96万人の市民全てが関係していることなのです。我々は、今焼却ゴミ3分の1削減を推進しています。大事なことは、これが達成されれば地球に優しいということになるし、清掃工場が3つあるのが2つで済むこととなります。千葉市には清掃工場が3つあって、ひとつは老朽化して建て替えをしなければなりません。この建て替えに180億円掛かるのです。清掃工場を建てるのは非常に高いのです。燃えるゴミが3分の1減れば2つで済むので、何とかして3分の1減らそうということで、今大体7割方達成しているのです。最後の3割を達成すれば、180億円減りますので他の投資に回すことが出来ます。又、清掃工場をひとつ運転するだけでも年間6億円掛かりますから、毎年6億円が未来永劫新たな財源として生まれてくることとなります。我々は、何が何でもこれを達成しなければならぬ、これは達成すれば全市民が協力をして達成するわけですから非常に重要なことです。それは市民の行動が街づくりや町のお金と密接に関わっていることを感じていただく必要がある、ということです。

我々が進めているのは今年度からスタートした三世代同居等支援事業があります。これは、お爺さんお婆さんとお父さんお母さんと孫の三世代が1km圏内で同居ということです。所謂、味噌汁が冷めない距離、この近くに住む場合に対して最大130万円を補助しようということです。核家族化が進んでいて無縁社会などと言われていますが、これは共働きの所帯が多いわけで、当然子供はフルに保育所に預けられてしまいます。お爺さん、お婆さんがいて1日、2日、或は1日の内の少しの時間を見てもらうだけでも行政に掛かる負担が減るのです。知らない人が育てるよりは知っている人が育てるのが良いに決まっています。これは保育所の話だけではなくて、大きくなった後でもそうです。それから三世代同居は、お爺さん、お婆さんを介護する事も出来ます。介護は、程度があって重くなれば勿論介護施設に行かなければならないでしょうが、軽度の介護は家族の中の支援とちょっとしたデイ・ケアーで成り立ったりするのです。そのようなところが、三世代が同居することによって行政の負担が減るのです。中には家族内での支え合いも生まれるというこ

とから、行政はお金を出しても支援すべきだということなのです。この施策にちょっと色合いとしてあるのは、人口を増やすということもあるのです。要は税を納めてもらう人を増やすということで、人口増施策も兼ねたセットの施策なのです。年間40件位かなと思っていましたら、8月までに40件の予算を使い切るような状態です。単純に市外からどのくらい来たのかを調べましたら、ちょうど半分の20世帯が来ていることと、その内、新築が40世帯の半分くらいの20世帯くらいありました。当然、新築といえば市内の建築業者に金が入る訳ですから、市内の建築業者を使った場合も、優遇するようにしています。私が市役所に来て思ったのは、人口を増やすという部隊はいないのです。人口は増えて当たり前、増えた人口をどう裁くかで行政は効率化する組織になっていますが、人口が増えなかったら如何するのだという組織そのものがないのです。どうせ人口は減るし、特に所得を払う勤労所帯が減るといことは絶対にまずいので、一人でも増やさなければならぬから、どんな施策を打って行こうかとした時に誰もいなかったのです。それを何とか全体の中で考えるように我々は若い世代、勤労世代、そして子育て世代を一人でも多く千葉市に呼び寄せる。それから高齢者が安心して過ごすことが出来る街づくりをする。それが我々の大きな、大きな目標です。

次に市から区、住民への分権問題としては、本庁舎だけで物事を決めるのではなく、住民に一番近い区役所に予算と権限を渡してありまして、その中で住民の皆さん方が本来は支え合う公共の部分で、市民の人達が何かやろう、例えば震災がらみでいうと、非常用井戸のような取り組みをしている団体には補助をしていく、そういう住民の為になることを、住民自身がやる場合、補助をして行くような予算を区役所にどんどん与えてあります。そういうように何か自分たちが社会の為に出来ないか、というのを必ず行政が応援をする。私はそういう街にして行きたいと思います。千葉市の職員は7,000人しかおりません。市民は96万人いる訳ですから、その市民一人一人が職員のほんの0.1人分だけ働いて頂くだけで総合力は大きく変わってまいります。そういう意味で一人でも多くの方々を呼び起こすような施策をしております。そういう中で折り返しの2年目を迎えてありまして、少しずつ物になる制度や形が出来てきてあります。残りの2年間で、この方法をもう少ししっかり固めて具体的な成果を一つ一つ出して、4年間でこのように変わったなあ、と実感できるような街づくりをしたいと思っております。

以上で私からの説明とさせていただきます。

(文責 寺澤 一良会員)

第2326回例会

日時⇒ 平成23年9月2日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『自己紹介』

卓話者⇒ 村田 紀之会員

第2327回例会

日時⇒ 平成23年9月9日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『お塩と放射能』

卓話者⇒ ㈱サンライフ 代表取締役 林 理智子様

